

絲價安定融資損失善後処理程序



昭和七年

糸井

大 蔵 省

公債發給へ同ホコノモリ取付スルノ	
善ノ主絲市野回對ナクセテ買取主絲ノ取付不可前ノナクニ續ハ開帳八半末	
廿 善後開帳八半末公債發給(總面)四四、八〇〇〇	(五二、〇〇〇、〇〇〇圓 前内開帳ニモルハ)
六 公債發給前開帳(總面)	五、六〇〇、〇〇〇圓 (至開帳八半十二月)
善 後	四、六〇〇、〇〇〇圓 (即時ノ年十月式)
與付定丁送ノ會費等	△ 一〇〇〇、〇〇〇圓 (總二々半公見幣)





絲價安定融資損失善後處理法案

第一條 政府ハ銀行ニ對シ左ノ各號ノ一ニ該當スル銀行ノ損失ニ

付二千三百<sup>三十七</sup>萬圓ヲ限り之ヲ補填スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

一 銀行ガ絲價安定融資補償法第一條ノ規定ニ依リ本法施行前

ニ政府ト爲シタル損失補償ノ契約ニ基キ損失ノ補償ヲ受ケタ

ル場合ニ於テ尚補償ヲ受ケザル損失アルトキハ其ノ損失

ニ 銀行ガ帝國蠶絲株式會社ニ對シ同社ガ絲價安定ノ爲昭和四

年十一月ヨリ昭和五年六月迄ノ間ニ於テ行ヒタル生絲共同保

管事業ノ資金トシテ生絲ヲ擔保トシテ爲シタル資金ノ融通ニ



付受ケタル損失

前項第二號ノ損失ハ銀行ガ擔保トシテ受取リタル生絲ニ付債權ノ辨濟ヲ受ケ尚不足アルトキ其ノ不足分トス

第二條 政府ノ補填スベキ額ハ損失補填ノ契約ニ定ムル條件ニ從ヒ絲價安定融資補償法ニ依ル絲價安定融資補償審査會之ヲ決定ス

第三條 政府ガ銀行ニ對シテ交付スベキ損失補填金ハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第四條 政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第五條 本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ主務大臣之ヲ定ム

第六條 絲價安定融資補償法第九條ノ規定ハ同法第一條ノ規定ニ依リ本法施行前銀行ガ政府ト爲シタル損失補償ノ契約ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條 損失ノ補填ヲ受クルノ契約ヲ爲シタル銀行ガ本法ニ基キテ發スル命令又ハ損失補填ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ契約ヲ解除シ、損失ノ全部若ハ一部ニ付補填ヲ爲サズ又ハ損失補填金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命ズルコトヲ得

第八條 本法ノ適用ニ付テハ産業組合中央金庫ハ之ヲ銀行ト看做



附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

絲價安定融資損失善後處理法案ニ關スル件

一 制定ノ沿革及理由

昭和四年秋以來米國賊界ノ恐慌ニ端ヲ發シタル絲價ノ異常ナル  
 低落ニ際シ之ヲ安定セシムル目的ヲ以テ先ヅ帝國蠶絲株式會社  
 ハ同年十一月ヨリ當業者ノ自治的對策トシテ生絲ノ共同保管事  
 業ヲ實行シタルガ豫期ノ如キ效果ヲ舉グルコトヲ得ズ次イデ昭  
 和五年四月政府ハ絲價安定融資補償法ヲ發動シタリ  
 右ノ絲價安定策ノ實施ニ當リ銀行ハ帝國蠶絲株式會社ノ共同保



管事業資金トシテ約三千三百萬圓、絲價安定融資補償法ニ依ル  
融通約一億五百萬圓ノ貸出ヲ爲シ其ノ擔保生絲ハ共同保管生絲  
二六三九〇俵、補償法ニ依ルモノハ三九四〇俵ニ達セリ

然ル處爾後絲價ハ豫期ノ如キ好轉ヲ示サズシテ右擔保生絲ヲ適  
當ニ處分シ了スルノ機會無ク昭和六年四月、五月ニ於テ補償生  
絲約二千五百俵ヲ處分シタルニ過ギズ大部分ハ其ノ儘滞貨生絲  
トシテ共同保管生絲二六三九〇俵、補償生絲八一四四〇俵、合  
計一〇七八三〇俵存續シ昭和七年四月至レリ

而シテ右滞貨生絲ノ絲價ニ對スル壓迫ハ極メテ著シキモノアリ  
テ米國經濟界ノ不況ト相伴ヒ絲價ハ漸落ノ傾向ヲ延リ春繭出廻  
期ノ接近スルニ從ヒ絲價ハ一段ノ低落ヲ示シ延テ繭價ノ激落ヲ  
招來スルノ虞甚シク滞貨生絲ヲ其ノ儘ニ放置スルコトヲ許サザ  
ルノ情勢トナレリ

然ルニ今回右滞貨生絲ヲ一括シテ賣却シ得ルノ見込立チ銀行ヨリ  
其ノ一括處分認可ノ申請アリタルニ對シ四月二十五日絲價委員  
會ノ議ヲ經タル上銀行ニ對シ認可ノ指令ヲ爲シタリ

而シテ銀行ハ右ノ處分ニ依リ其ノ處分代金ヲ收受スルモ共同保  
管生絲ニ於テ約一千七百六十餘萬圓、補償生絲ニ於テ約七千五百  
餘萬圓合計約九千二百七十餘萬圓ノ不足額ヲ生ジ補償法ニ依ル既



定ノ損失補償金約二千九百五十餘萬圓ノ交付ヲ受クルモ尚巨額ノ不足額ヲ殘存スルコトトナレリ

然ル處近來蠶絲業ノ不況ハ極メテ深刻ニシテ右不足額ノ全部ヲ製絲業者ヨリ取立ツルトキハ既ニ疲弊甚シキモノアル製絲業ニ對シ更ニ一層ノ脅威ヲ與ヘ其ノ根柢ヲ動搖セシメ延テ我國重要産業タル蠶絲業ノ基礎ヲ危クスルノ虞アルヲ以テ斯業ノ國民經濟上ニ於ケル重要性ニ鑑ミ其ノ維持發展ヲ圖ルガ爲ニハ製絲業者ノ負擔ハ之ヲ堪工得ベキ限度ニ止メ銀行ニ對シテモ相當ノ負擔ヲ爲サシメタル上殘額ハ政府ニ於テ之ヲ補填スルコトト爲ス

ノ要アリ

右ノ趣旨ニ依リ製絲業者ノ負擔ハ帝國蠶絲組合ノ積立金(年額約三百五十萬圓)ヲ以テ無利子ニテ三千五百萬圓ヲ年賦償還(約十ヶ年ヲ要ス)スルノ程度ニ止メ、銀行ハ約四百八十餘萬圓ヲ負擔シ、政府ハ殘額約二千三百四十萬圓ヲ銀行ニ對シ補填セントス

之本法案制定ノ理由ナリ

## 二法案要項



(一) 政府ハ銀行ニ對シ滯貨生絲ノ處分ニ依リテ生ジタル銀行ノ損失ニ付テ總額二千三百四十萬圓ヲ限度トシテ之ヲ補填スルノ契約ヲ爲シ得ルコト

(二) 右ノ契約ニ基キ政府ノ補填スベキ額ハ絲價安定融資補償審査會ニ於テ之ヲ決定スルコト

(三) 政府ガ銀行ニ對シテ交付スベキ損失補填金ハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付シ得ルコトトシ政府ハ其ノ交付ニ必要ナル額ヲ限度トシテ公債ヲ發行シ得ルコト

(四) 右ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ主務

大臣之ヲ定ムルコト

(五) 絲價安定融資補償法ニ依ル既定ノ損失補償金(約二千九百五十萬圓)ハ製絲業者ヨリ之ヲ取立ツベキ趣旨ノモノナルガ製絲業者ノ疲弊甚シキ現狀ニ鑑ミ政府ハ其ノ取立ニ關シ之ヲ免除シ得ルモノトスルコト

(六) 損失ノ補填ヲ受クルノ契約ヲ爲シタル銀行ガ本法ニ基キテ發スル命令又ハ損失補填ノ契約ニ違反シタルトキハ政府ハ契約ヲ解除シ、損失ノ全部又ハ一部ニ付補填ヲ爲サズ又ハ損失補填金ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命ジ得ルコト



(七) 本法ノ適用ニ付テハ産業組合中央金庫ハ之ヲ銀行ト看做スコト

滞貨生絲處分ノ件

(昭五、四)

一 滞貨生絲ハ補償生絲八一、四四〇俵共同保管生絲二六、三九〇俵合計一〇七、八三〇俵ナリ

(イ) 補償生絲

昭和五年四月ヨリ六月ノ間ニ補償法ニ依ル銀行ノ貸出約一億五百万円ノ担保生絲ニシテ総數八三、九四〇俵ニシテ昭和六年四月ニ於テ二、五〇〇俵ヲ處分シタル残余八一、四四〇俵ガ滞貨トシテ今日ニ至レルモノナリ

(ロ) 共同保管生絲

昭和四年十一月以降業者ノ自給的絲價対策トシテ帝國蚕絲株



株式会社が実行シタル生絲共同保管事業貸出金約三千三百万円ノ  
担保生絲ニシテ全部未処分ノ儘今日迄残存セルモノナリ

二右滞債生絲ノ絲價ニ対スル圧迫甚シキヲ以テ之ヲ一括処分スル  
コトトシ本年四月二十五日絲價委員会ノ議ヲ經テ農林大臣ハ直  
チニ銀行ニ対シ右処分ノ認可ヲ與ヘ銀行ハ旭シルク株式会社ト  
ノ間ニ別紙寫ノ通り一括賣買ノ契約ヲ締結セリ

三右賣買契約ニ依リ(イ)賣渡價格ハ百斤当一率ニ四百五十五円、(ロ)  
受渡期間ハ約三ヶ月間、(ハ)代金支拂ハ受渡ノ都度四日以内ト確  
定シ賣買証據金トシテ買方ハ一百万円ヲ提供セリ

四右賣買契約ト共ニ賣買両者間ニ於テ別紙寫ノ通り今後一ヶ年間  
絲價が賣買契約成立ノ日ヨリ以前一週間ノ平均絲價ヨリ低落シ  
タルトキハ一俵ニ付百五十円ノ割合ニテ總額千六百七十七万四百  
五十円ヲ政府ニ獻金スベキ旨ノ契約ヲ締結セリ

而シテ其ノ積立方法ハ代金支拂ノ都度之ト同時ニ一俵ニ付百五  
十円ヲ農林大臣ノ指定スル銀行ニ定期預金トシテ預入レ其ノ預  
金證書ヲ正金銀行ニ保管セシムルモノナリ

五而シテ右処分後ニ於ケル損失ニ付テハ大体左ノ如ク處理スル方  
針ニテ諸般ノ準備ヲ進メツ、アリ

(イ)製絲業者負担



株式会社実行シタル生絲共同保管事業貸出金約三千三百万円ノ  
担保生絲ニシテ全部未処分ノ儘今日迄残存セルモノナリ

二右滞債生絲ノ絲價ニ対スル圧迫甚シキヲ以テ之ヲ一括処分スル  
コトトシ本年四月二十五日絲價委員会ノ議ヲ經テ農林大臣ハ直  
チニ銀行ニ対シ右処分ノ認可ヲ與ヘ銀行ハ旭シルク株式会社ト  
ノ間ニ別紙寫ノ通り一括賣買ノ契約ヲ締結セリ

三右賣買契約ニ依リ(イ)賣渡價格ハ百斤当一率ニ四百五十五円、(ロ)  
受渡期間ハ約三ヶ月間 (ハ)代金支拂ハ受渡ノ都度四日以内ト確  
定シ賣買証據金トシテ買方ハ一百万円ヲ提供セリ

四右賣買契約ト共ニ賣買両者間ニ於テ別紙寫ノ通り今後一ケ年間  
絲價ガ賣買契約成立ノ日ヨリ以前一週間ノ平均絲價ヨリ低落シ  
タルトキハ一俵ニ付百五十円ノ割合ニテ總額千六百七十四百  
五十円ヲ政府ニ獻金スベキ旨ノ契約ヲ締結セリ

而シテ其ノ積立方法ハ代金支拂ノ都度之ト同時ニ一俵ニ付百五  
十円ヲ農林大臣ノ指定スル銀行ニ定期預金トシテ預入レ其ノ預  
金證書ヲ正金銀行ニ保管セシムルモノナリ

五而シテ右処分後ニ於ケル損失ニ付テハ大体左ノ如ク處理スル方  
針ニテ諸般ノ準備ヲ進メツ、アリ

(イ)製絲業者負担



帝國蚕絲組合ノ積立金一俵当七円、年額約三百五十万円ヲ以テ十ヶ年無利子年賦償還シ得ル額約三千五百万円

(四) 銀行負担

昭和六年十一月以降ノ金利倉敷全部約四百八十万円

(ハ) 政府負担

右兩者ノ負担額以外ノ残存損失全部

既定補償金	約二千九百五十万円
新規補填金	約二千四百万円
合計	約五千三百五十万円

滞貨生絲損失分擔ニ関スル計算

一、銀行債權總額

補償生絲	一一〇、九八四、五九七円
共保生絲	二九、六一三、〇四七円
合計	一四〇、五九七、六四四円

二、辨濟額(擔保生絲處分代金)

補償生絲	三六、八二九、二〇三円
共保生絲	一一、九四四、二八七円
合計	四八、七七三、四九〇円

三、差引損失額



補償生絲 七四、一五五、三九四円  
 共保生絲 一七、六六八、七六〇円  
 合計 九一、八二四、一五四円  
 政府補償金交付済額 八七九、〇〇〇円  
 再合計 九二、七〇三、一五四円

四 損失分擔額

(一) 製絲業者負擔額 三五、〇〇〇、〇〇〇円  
 (二) 銀行負擔額 四、八二〇、一八六円  
 (三) 政府負擔額 五二、八八二、九六八円

内譯

二九、五一三、三〇四円  
 二、三六九、六六四円  
 既定補償額 八七九、〇〇〇円  
 内交付済分 未交付分 二八六、三四三、〇四円  
 新補填金額

滞貨生絲 (補償生絲) / 損失推算

昭和七年六月十五日現在ニ於ケル計算

區分	金額	補償額 / 分	共保額 / 分	備考
一 銀行 / 債權總額	一四〇、五九七、六四四円	一一〇、九八四、五九七円	二九、六一三、〇四七円	
二 辨済額 (担保生絲處分代金)	四八、七七三、四九〇	三六、八二九、二〇三	一一、九四四、二八七	
三 差引銀行 / 損失總額	九一、八二四、一五四	七四、一五五、三九四	一七、六六八、七六〇	
四 政府補償額	二八、六三四、三〇四	二八、六三四、三〇四	〇	既定 / 分 一荷口符 三五一六円
五 再差引銀行 / 損失殘額	六三、一八九、八五〇	四五、五二一、〇九〇	一七、六六八、七六〇	

右計算 / 基礎左 / 如シ



一 銀行ノ債権額  
 (一) 補償生絲

區分	元本	利率	期間	利息	内未收(既收)分	元利合計(未收分)
未履分八二四荷三対元債権額	101,800.00	年五分	(普通) 融通金額 一三,五〇〇円 融通金額 一八〇日付 八二日付	11,075.35	(三) 四二,六〇〇 八,六三二,七一五	110,433.715
融通元金	101,800.00					
格付及罐詰費	410,334	年五分		3,581	3,581	413,915
立替倉敷料	239,828	年五分		8,000	8,000	247,828
倉敷料(未拂分)	1,208,495			0	0	1,208,495
計	1,036,448.657			11,656.35	11,656.35	1,048,105.007
引當預金	1,000,000	年五分		17,560	17,560	1,017,560
除去絲慶分代金	494,320	年五分		1,904.2	1,904.2	496,224.2
計	2,194,320			19,464.2	19,464.2	2,213,784.2
差引銀行ノ債権額	101,145.338			0	8,811.101	109,956.439

慶分濟二五〇荷三対元債権額	101,123.338	年五分		3,584.6	3,584.6	104,708.938
銀行ノ債権総額	102,466.650			0	8,577.947	110,984.597

(二) 共同保管生絲

區分	元本	利率	期間	利息	元利合計	備考
融通元金(残額)	285,012.00	年五分	二二,七〇日 二二,九〇日 二二,七〇日	1,547	286,559.00	
除去絲慶分代金	57,681	年五分		1,547	59,228	
差引銀行ノ債権額	284,435.19			0	284,435.19	
外金 金利倉敷料	339,875.00	年五分	二二,七〇日 二二,九〇日 二二,七〇日	1,030.860	340,905.860	
倉敷料	0			1,000.115	1,000.115	
小計	0			1,110.000	1,110.000	
銀行ノ債権総額	284,435.19			0	284,435.19	



二 辨 濟 額 (担保生絲其、他處分代金)

品名	金額	補償額	
		補償額	共保額
本 荷 口	四八、五七二、〇二三 円	三六、六八四、六四八 円	一一、八八七、三七五 円
除 去 絲	一〇、〇〇一	〇	一〇、〇〇一
正量検査料絲	一五三、六五六	一一六、〇五一	三七、六〇五
アドソール	三七、七四〇	二八、五〇四	九、二三六
辨濟額(担保生絲處分代金)	四八、七七三、四九〇	三六、八二九、二〇三	一一、九四四、二八七

参 照

自昭和六年十月末日  
至同七年六月十五日 補償生絲ニ付スル金利、倉敷

區 分	元 本	利 率	期 間	金 息	備 考
一 未處分八二四荷口ニ付スル金利	一〇一、八〇〇、〇〇〇 円	年五分	二二七 日	三一八五、四六八 円	損次額中利子ヲ附セサル 金額一七、三五三 円ヲ控除 シテ利子ヲ算出セリ
融 通 元 金	四一〇、三三四				
格付及雜詰費	二二九、八二八				
立 替 倉 敷 料	一〇二、〇〇〇、一六二				
計	一、〇二二、三一一	年五分	二二七	三〇、九三九	
二 未處分八二四荷口ニ付スル金利	一、〇二二、三一一			三、二一六、四〇七	
損 失 残 額	一、〇二二、三一一			四、三三、七〇四	
金 利 倉 敷 料 合 計	一、〇二二、三一一			三、六四九、一一一	





契約書

横濱正金銀行（以下甲ト稱ス）ハ補償生絲融資銀行團ヲ代表シ旭  
シルク株式會社（以下乙ト稱ス）ト契約スルコト左ノ如シ

一 補償生絲八壹四四荷口及共同保管生絲貳六參九荷口ヲ一括シテ  
左記條件ニテ甲ハ乙ニ賣却スルモノトス

(イ) 賣却價格 生絲壹百斤ニ付一率金四百五拾五圓

(ロ) 受渡期間 受渡ハ検査所ニ於ケル日々ノ正量検査能力ニ應シ  
之ヲナスモノトシ本契約日付以後約三ヶ月ニテ完了スルモ  
ノトス

前記受渡期間ヲ延滞シタル場合ニハ乙ハ壹荷口ニ付金四千  
五百五拾圓ニ對スル日歩壹錢六厘ノ延滞利息及其期間ノ倉  
敷料ヲ支拂フコト

(ハ) 受渡方法 生絲検査所品位及正量ノ檢定證、倉荷證券又ハD/O、  
T/Tヲ以テ箱附ニテ（アドソールハ甲ニ返還ス）受渡ヲ完

了ス



了スルモノトス、但シ格外品ニ對シテハ現品ノミノ受渡ヲ  
ナスモノトス

正量検査費用其他受渡ニ要スル費用ハ乙ノ負擔トス

(二)代金支拂方法 正量検査終了後四日以内タルコト

三、乙ハ契約保證金トシテ金壹百萬圓ヲ甲ニ提供スルモノトス

三、本契約ニ記載セサル事項ハ凡テ商習慣ニヨル

昭和七年四月二十五日

横濱正金銀行

頭取 兒玉謙次

旭シルク株式會社

代表取締役 小田萬藏



絲價維持契約書

今般旭シルク株式會社(以下乙ト稱ス)カ横濱正金銀行(以下甲  
ト稱ス)及産業組合中央金庫ヨリ補償生絲八壹四四荷口及共同保  
管生絲貳六參九荷口(以下滞貨生絲全部ト稱ス)ヲ一括購入スル  
ニ就テハ政府ノ爲ニスル停止條件付獻金契約ヲ左記條件ニ依リ甲  
乙間ニ於テ締結ス

記

第一條 滞貨生絲全部ノ賣買契約成立ノ日ヨリ一ケ年ノ間ニ於テ  
絲價カ維持價格ヨリ低落シタルトキハ乙ハ政府ニ對シ一俵ニ付  
金百五拾圓ノ割合ニテ滞貨生絲全部分金壹千六百拾七萬四百五  
拾圓ヲ獻金スルコト

第二條 本契約ニ於テ絲價ト稱スルハ昭和七年六月三十日迄ハ昭  
和六年度産、昭和七年七月一日ヨリ昭和八年六月三十日迄ハ昭  
和七年度産ノ生絲ノ白十四中D格品ノ横濱生絲問屋業組合及神



戸生絲問屋業組合ノ發表スル毎日ノ現物相場ヲ平均シタル價格ヲ謂フモノナルコト

本契約ニ於テ維持價格トハ滞貨生絲全部賣買契約成立ノ日以前一週間ニ於ケル絲價ヲ平均シタル價格ヲ謂フモノナルコト

本契約ニ於テ絲價カ維持價格ヨリ低落シタルトキハ各月ニ於テ絲價カ維持價格以下ト爲リタル日二十日以上アリ且其ノ月ニ於ケル絲價ノ平均價格カ維持價格以下ト爲リタル場合ヲ謂フモノナルコト

第三條 乙ハ本契約ノ履行ヲ確保スル爲滞貨生絲受取ノ都度賣買代金支拂ト同時ニ一俵ニ付金百五十圓ヲ農林大臣ノ指定スル銀行ニ一ケ年間ノ定期預金トシテ積立テ其ノ預金證書ヲ甲ニ保管セシムルコト

第四條 乙ハ甲ニ對シ左ノ各號ノ一ニ該当スル場合ニハ前條ニ依リ積立テタル金額ノ全部ヲ遲滞ナク政府ニ獻金スルコトヲ委任スルコト

スルコト

一 絲價カ滞貨生絲全部賣買成立ノ日ヨリ一ケ年ノ間ニ於テ維持價格ヨリ低落シタルトキ

ニ 乙カ前條ノ規定ニ依ル積立ラ遲滞シタルトキ

第五條 乙ハ甲カ前條ノ委任行爲ヲ行フ爲第三條ノ積立金ヲ引出シ得ル權限ヲ豫メ甲ニ對シ委任スルコト

第六條 第四條第一號ニ基キ甲カ乙ノ委任ニ依リ政府ニ獻金シタル金額カ第一條ノ滞貨生絲全部ノ金額金壹千六百拾七萬四百五十圓ニ滿タサルトキハ其ノ殘餘ノ金額ニ付乙ハ政府ニ對シ尙債務ヲ負擔スルモノトスルコト

第四條第二號ニ基キ甲カ乙ノ委任ニ依リ政府ニ獻金シタル場合ニ於テ滞貨生絲賣買成立ノ日ヨリ一ケ年ノ間ニ絲價カ維持價格ヨリ低落シタルトキハ前項ニ同シキコト

第七條 本契約ニ依リ政府ニ對シ獻金シタル金員ハ政府カ今後新



二行フヘキ蠶絲業改善施設又ハ絲價安定施設ノ資金ニ充當スル  
コトヲ目的トスルコト  
第八條 本契約書ハ貳通ヲ作成シ甲及乙ニ於テ各壹通ヲ所持スル  
コト

昭和七年四月貳拾五日

以上

横濱正金銀行

頭取 兒玉謙次

旭シルク株式會社

代表取締役 小田萬藏

補償法關係

印券紙錢

約定書

今般當社者力絲價安定融資補償法ニ基キ貴行ヨリ生絲ヲ擔保トシ  
テ金員借用相頼候ニ就テハ左記ノ通り約定致候

第一條 擔保品タル生絲ハ農林大臣ノ指定シタル倉庫會社へ當  
該會社營業規則承認ノ上寄託シ之ニ對シ發行シタル倉荷證券  
へ裏書ノ上貴行へ差入ルルコト

右擔保生絲ハ當社者ニ於テ昭和四年產繭ヲ以テ製造又ハ加工シ  
タル輸出向器械生絲ニシテ最優格以上倉入目壹〇參〇斤以上  
ヲ具ヘ且貴行カ農林大臣ノ承認ヲ受ケタル方法ニ依リ検査ニ  
合格シタル一荷口ヲ單位トスヘク又倉荷證券記載事項ノ數量  
品質ニ付テハ當社者ニ於テ其ノ責ニ任スルコト

萬一検査ニ合格ノ後ト雖モ右品質量目不備ナリシ事發見ノ節  
ハ當社者ニ於テ遲滞ナク之ヲ他ノ合格品ト入換ヘ可申コト



第二條 借入金ハ<sup>當社者</sup>振出貴行又ハ貴行神戸支店宛、支拂地横濱市又ハ神戸市、支拂場所貴行又ハ貴行神戸支店、金額壹貳五〇〇圓一覽拂約束手形割引ノ形式ニヨリ借入ルルコト  
割引料ハ百圓ニツキ日歩壹錢六厘ノ割合ヲ以テ九拾日毎ニ前拂スルコト

但シ貴行御都合ニヨリ前記割引日歩變更セラルルモ異存ナキコト

第三條 借入金元利ハ貴行ノ御請求次第擔保品ノ處分如何ニ拘ラス何時ニテモ直ニ辨済スヘキコト

第四條 原因ノ何タルヲ問ハス擔保品ノ上ニ生シタル損害ハ總テ<sup>當社者</sup>ニ於テ其ノ責ニ任スルコト

第五條 擔保品ノ保存ニ付貴行ヨリ指示アリタルトキハ之ニ從フヘク貴行ニ於テ<sup>當社者</sup>ニ代リ右保存ノ爲メ必要ナル處置ヲセラルルトモ異存ナキコト

第六條 擔保品ニ對スル保管料（保險料ヲ含ム）及其他ノ諸費用ハ總テ<sup>當社者</sup>ニ於テ負擔スルコト

第七條 貴行カ農林大臣ノ承認ヲ受ケテ擔保品ヲ轉賣ノ目的物トセラルルモ異存ナキコト

第八條 借入金ノ辨済遲滞シタルトキハ貴行隨意ノ時期方法及價格ニ於テ擔保品ヲ處分セラルル共異議申立テサルコト

第九條 壹荷口ノ賣却代金カ之レニ對スル貴行ヨリノ借入金ノ元利及諸費用ニ充當シ尚ホ剩餘アル時ハ貴行ニ於テ隨意他ノ借入金元利及諸費用ニ充當セラルルモ異存ナキコト

如何ナル場合ニ於テモ貴行ニ於テ擔保品處分ノ上債權ノ辨済ニ充當セラレ尚ホ不足ヲ生シタル時ハ<sup>當社者</sup>ニ於テ一切辨済ノ責ニ任スルコト

第十條 絲價安定融資補償法ニ基キ貴行カ政府ヨリ補償金ヲ受領セラレタル場合ト雖<sup>當社者</sup>ヨリ貴行ニ對スル元利金及諸費用



支拂不足額ニ付テハ貴行ニ於テ當社者ヨリ直接取立テラルルハ  
勿論當社者ノ委託問屋其他當社者ノ為メニ生絲ノ販賣ヲ為ス者ヲ  
シテ貴行ノ為メニ請求セシメラルルカ又ハ隨時委託生絲販賣  
代金中ヨリ前記元利不足額及諸費用ヲ取立テラルルモ更ニ異  
議申立テサルコト

第十一條 貴行當社者ニ對スル債權ノ取立ニ付農林大臣ノ認可  
ヲ受ケテ支拂ハルル手数料其ノ他ノ費用ハ當社者ニ於テ負擔ス  
ルコト

第十二條 貴行カ農林大臣ノ承認ヲ受ケ又ハ其ノ指示ニ從ヒ前  
各條ノ條件ヲ變更シ又ハ條件ヲ追加セラルルトモ異存ナキコ  
ト

昭和 年 月 日

以 上

住所

氏名

横濱正金銀行 御中



### 生絲共同保管事業ノ經過

一、昭和四年十月末米國財界ノ恐慌的變動以來絲價ハ漸落ノ傾向ヲ  
辿リ市況一段ノ悪化ヲ呈スルノ虞アルニ至リ当業者ニ於テ之ガ  
対策ニ付講究スル所アリタルガ十一月十八日ヨリ開催セラレタ  
ル蚕絲業同業組合中央会第十六回總會ニ於テ絲價維持対策トシ  
テ(1)操業短縮(昭和四年十二月十五日ヨリ年末迄全國一斉休業  
及昭和五年二月一日ヨリ五月三十一日迄運轉全數ニ割封印)ト  
共ニ(2)横濱、神戸兩市場ニ於テ絲價一千二百五十円(百斤)ノ  
維持ヲ目的トシ五萬梱迄ノ生絲共同保管ヲ為スコトヲ決議シタ

昭和七年五月廿四日



二、帝國蚕絲株式會社ニ於テハ右ノ決議ニ基キ横濱正金銀行ヨリ當時ノ普通ノ生絲担保價格一捆当六百円（百斤ニ付千八十円）ヲ借入ル、外自己資金（約百十萬円）及農林大臣ノ承認ヲ得テ借入レタル帝國蚕絲組合積立金（約三百三十萬円）ヲ運用シ生絲百斤当千二百五十円ノ貸付ヲ為シ共同保管事業ヲ開始シタリ

三、然ル處爾來生絲價ノ不安定著シク先行ニ對スル不安人氣強ク為ニ共同保管生絲ノ提供ハ豫期ノ如ク進捗セズ昭和五年一月末ニ於テ豫定ノ五萬捆中僅ニ約二萬五千捆ヲ收容シタルニ止リ保管事業停頓ノ兆アルニ至レリ

四、事態右ノ如クナリシ結果蚕絲業同業組合中央會ニ於テ生絲價維持策實施ノ為設ケラレタル生絲生産調節理事會ハ昭和五年一月三十日其ノ特別委員會ヲ開キ共同保管事業ノ促進ヲ圖ル為從來當業者ノ任意トシテ實行セラレタル共同保管ヲ強制共同保管（各生絲問屋ニ對シ保管ニ提供スベキ生絲ノ數量ヲ割當テ荷主タル製絲業者ノ同意ヲ求メ帝蚕會社ニ貸付ヲ申請スベキコトヲ強制シ解除ノ時期ハ同社ニ一任スル方法）ニ改メ且保管解除ノ際生絲價が千二百五十円ニ達セザルトキハ帝國蚕絲株式會社ニ於テ百斤ニ付百円ヲ限度トシテ其ノ差額ヲ補償スルコト等ヲ決議シ其ノ實行ヲ帝國蚕絲株式會社ニ委嘱セリ依リテ帝國蚕絲株式會



社ハ之ニ必要ナル準備ヲ整へ從來ノ保管濟約二万五千梱ヲ強制  
共保ニ振替へルト共ニ二月十九日ヨリ新ニ強制共同保管ノ実行  
ニ着手セリ

五、右ノ如クニシテ共同保管ノ進捗ヲ図リタルモ絲價依然トシテ好  
轉セズシテ不安人氣旺盛ナル為保管生絲ノ提供進展セズ二月末  
ヨリ市況一段ノ悪化ヲ示シ事態容易ナラザルコトトナリ三月ニ  
入りテ政府モ絲價安定融資補償法ノ発動ヲ決定シタルが其ノ実  
行ハ共同保管ノ豫定數量ニ達シタル後ニ於テ為スコトトナリタ  
ル結果帝國蠶絲株式会社ニ於テ極力共同保管ノ促進ニ努力シ三

月二十二日ニ至リ漸ク豫定數量ノ收容ヲ了シ同日ヲ以テ其ノ受  
付ヲ締切リタリ（而シテ右ノ生絲ニ対スル現實ノ貸付ハ六月ニ  
及ベリ）

六、斯クシテ共同保管ニ依ル貸付ヲ受ケタル生絲ハ總數二千六百三  
十九荷口（約二万六千四百俵、約四万五千梱）ニシテ、貸出總額  
ハ約三千三百萬円ニ達セリ

七、然ル處爾來絲價ハ低落ニ重ヌルニ低落ヲ以テシ同年六月ニハ七  
百円台トナリ、十月ニハ五百円台ニ低落シ爾後多少ノ昂低アリ  
タルモ昭和六年五月以來ハ大体ニ於テ五百円台ニ終始シ昭和七  
年一月ヨリハ金輸出再禁止ニ因ル為替相場ノ低落ニ基キ多少ノ



及騰ヲ示シタルガ市況再ビ悪化スルニ至リ遂ニ帝國蚕絲株式會社トシテ自発的ニ共同保管ヲ解除スルハ勿論共同保管生絲ヲ担保トセル銀行モ之ヲ處分スルノ機会ナク總數量ハ其ノ儘滞貨トシテ存在シ昭和七年四月ニ至レリ

帝國蚕絲株式會社概要

蚕絲局



帝國蠶絲株式會社概要

一 設立

帝國蠶絲株式會社ハ昭和二年ニ於ケル絲價低落ニ際シ當面ノ處  
置トシテ生絲共同保管ヲ爲スニ當リ之レガ機關トシテ同年十月  
二十九日設立セラレタルモノニシテ將來ニ於テハ平常ノ業務ト  
シテ生絲問屋業及製絲金融ヲモ爲サントスルモノナリ

二 目的及事業

絲價安定ヲ期スル爲メ左ノ業務ヲ營ムヲ以テ目的トス

一 生絲ノ買入及其ノ賣渡シ

二 生絲又ハ其ノ倉荷證券ヲ担保トスル貸付、但シ債務者ニ對シ

貸付金ノ一部ヲ免除シ又ハ債務者ヲシテ貸付ニ依リテ生シタ

ル利益ノ一部ヲ納付セシムルコトヲ得

三 生絲又ハ其ノ倉荷証券ヲ担保トスル債務ノ保証



- 四 生絲ノ問屋業
- 五 絹織物、絹製品ノ製造加工及ヒ其ノ販賣
- 六 生絲格付取引ニ關聯スル業務

三 主ナル業績

本公司ノ今日迄ニ於ケル事業状況ヲ見ルニ昭和二年ノ絲價ノ低落ニ際シ横濱正金銀行ヨリ資金ノ融通ヲ受ケ生絲一荷口ニ付一萬三千五百圓ノ担保價格ヲ以テ製絲業者ニ對シ合計九百十六口金額千二百三十六萬六千圓ヲ貸付ケ共同保管事業ヲ遂行シ更ニ昭和四年糸價ノ異常ナル低落ニ際シテハ前例ニ倣ヒ生絲ノ共同保管ヲ行ヒ横濱正金銀行及社團法人帝國蚕絲組合ヨリ資金ノ融通ヲ受ケテ保管生絲ニ對シ百斤ニ付千二百五十圓ノ貸付ヲ爲シタルモ絲況尚好轉セザルニ更ニ昭和五年二月中旬ヨリ當時ノ共同保管生絲約ニ萬五千梱ト共ニ五萬梱迄ノ強制共同保管ヲ左ノ

條件ニ依リ實行セリ

(一) 共同保管ニ際シテハ検査ノ上格付ヲ爲シ上格品ニ對シテハ貸増ヲ爲スコト

(二) 共同保管解除ノ場合ニ横濱市場ニ於ケル最優等格成行値段ガ千二百五十圓ニ達セザルトキハ本會社ニ於テ其ノ差額ニ付百斤百圓ノ限度ニ於テ補償スルコト 若シ千二百五十圓ヨリ高價ナルトキハ其ノ差額ノ半額ヲ本公司ニ提供スルコト

(三) 共同保管期間六ヶ月迄ハ金利及倉敷料ハ荷主ノ負担トシ六ヶ月ヲ超ユルトキハ其ノ超エタル分ヲ本會社ニ於テ負担スルモノトス

其ノ貸付額ハ合計ニ千六百三十九口ニ千三百二萬四千八百圓ニ及ベリ次イデ絲價安定融資補償法ノ運用ニ當リテハ資金融通銀行ノ爲ニ其ノ担保生絲ノ検査並ニ貸付ニ關スル一切ヲ代掌セリ尚生絲生産調節理事會及蚕絲業同業組合中央會ニ對シ合計六萬



六千圓ノ寄附金ヲナセリ  
 本會社ハ利益配當年一割ヲ超ユルコトヲ得ザル外其ノ事業ノ遂  
 行ニ関シ重要事項ニ付テハ農林大臣ノ監督ヲ受クルモノトス  
 昭和六年五月末日現在ニ於ケル會社ノ概況左ノ如シ

四 事務所

本店 横浜市中区北仲通五丁目五十七番地  
 出張所 神戸市海岸通五番大阪商船ビル内

五 資本金

五百萬圓(四分ノ一掛込) 十萬株 一株五十圓  
 右四分ノ一掛込金百二十五萬圓ハ帝國蚕絲組合ヨリ其ノ積立金  
 ノ融通ヲ受ケタルモノニシテ將來ノ掛込ニ付テモ同組合積立金  
 ノ存スル限度ニ於テ融通ヲ受クルコトニ組合ト株主トノ間ニ契  
 約アリ

六 株 主

株主ハ蚕絲業関係業者ニ限ル趣旨ヲ以テ定款ノ規定ニ依リ株式  
 譲渡ニ付テハ會社取締役會ノ承認ヲ要スルコト、セリ  
 株主教一六〇人其ノ内訳左ノ如シ

製 絲 業 者 一〇九名  
 生絲賣込問屋 三八名  
 其他(蚕種製造業者) 一三名  
 計 一六〇名

七 資産及負債

科 目	資 産	科 目	負 債
未押込株金	三七五〇,〇〇〇.〇〇	株 金	五,〇〇〇,〇〇〇.〇〇
什器備品	一七,七二五.六〇	法定積立金	四,五〇〇,〇〇〇.〇〇
貸 付 金	三三〇,二四八.〇〇	前期繰越金	六三,一六五.七七



八 役 員

計	現 金	當 座 預 金	假 押 金	未 収 金	計	借 入 金
三、七、〇、三、五、五、七、三、八、四、〇	三、七、二、五、三、〇	二、一、三、四、三、三、八、〇	九、〇、三、五、〇、九、〇	二、〇、〇、〇、六、八、〇、〇		三、三、四、四、一、六、一、七、八、九、〇
						八、三、五、一、五、九、〇
					三、八、五、一、七、六、三、五、二、五、〇	

取締役社長  
事務取締役

同  
同  
取締役

同

今井五介  
加賀山辰四郎  
澁澤義一  
小野哲郎  
原善一郎  
西谷金藏  
小口善重

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

査 役

大久保佐一  
勝山勝司  
遠藤三郎兵衛  
新井高四郎  
隅田豊吉  
杉山寅雄  
木村賛夫  
富田勘之丞  
若尾幾太郎  
長野友博  
矢島榮助  
澁澤治太郎  
瀨黒幸一  
二木 洵





證

今般絲價安定策トシテ當社ハ生絲業者ニ對シ生絲壹捆ニ付金約七  
 百圓ノ割合ヲ以テ貴行御承認ノ範圍ニ於テ貸出ヲ爲スニ付右所要  
 資金借入方願出候屢御承諾被下候ニ就テハ左ノ通り遵守可致候  
 一 借入金ハ製絲業者振出問屋裏書手形ニ對シ貸本可申 右手形  
 ハ總テ當社ニ於テ裏書ノ上擔保トシテ貴行へ提供可致事  
 貴行御都合ニヨリ右手形ヲ他ニ御讓渡相成候トモ當社ニ於テ  
 異議無之事

二 御融通金擔保トシテ差入ルヘキ生絲ハ輸出向最優格以上ニシ  
 テ帝國蚕絲倉庫株式會社又ハ同社ノ指定シタル倉庫会社ニシテ  
 貴行ノ御承認ヲ得タル倉庫保管ノモノタルバク當該倉庫證券ハ  
 寄托者裏書ノ上貴行へ提供可致事

三 利息ハ日本銀行國債擔保手形最低割引歩合(現行日步壹錢六厘)  
 ニ準スル事



但御都合ニヨリ何時ニテモ貴行御指定ノ利率ニ変更セラル、  
モ異存無之候

四、借入金ハ昭和五年六月參拾日迄ニ返済可致萬一未拂ノ債務残  
存スルトキハ貴行ニ於テ前記擔保品ヲ任意處分セラル、モ當社  
ニ於テ異議ナキコト

五、前項ノ擔保品處分代金カ右借入金ノ殘債務額ニ達セサルトキ  
ハ當社ニ於テ其ノ不足額ヲ支拂可致ハ勿論社團法人帝國蚕絲組  
合ト當社株主間ニ於ケル契約ニ基キ其ノ當時及將來ニ於ケル同  
組合積立金ヲ當社株主金押込ニ充當セシメ右金額ヲ貴行ニ提供シ  
右不足額ノ填補ニ充當可致候事

六、盜難、滅失、毀損其他ノ事由ニヨリ擔保品ニ生シタル一切ノ  
損害ハ當社ニ於テ賠償可致事

七、前記借入金ノ形式並ニ擔保品取扱ニ關シテハ總テ貴行御指圖  
ニヨリ別ニ其ノ手續方法ヲ定ムルコト

昭和四年拾壹月拾八日

帝國蚕絲株式會社

社長 今井五介

横濱三金銀行御中





別約當座借越金勘定約定書

當社ヨリ生絲ヲ貴行へ擔保ニ差入レ資金御融通相願候ニ就テハ左記ノ通り別約當座借越金勘定約定締結致候

第一條 擔保品タルヘキ生絲ハ帝國蠶絲倉庫株式會社及同社指定倉庫へ入庫致シ可申候事

第二條 別約當座借越金ハ貴行ノ御承認ヲ得タル金額ヲ限リ小切手ヲ以テ引出シ可申候萬一貴行御承諾ノ金額ヲ超過シテ小切手ヲ振出候節ハ支拂方拒絶相成候共聊カ異議無之候事

第三條 第二條ノ小切手ハ豫メ別約當座借越金引出用トシテ貴行ヨリ交付セラレタル小切手ヲ使用可致候事

第四條 別約當座借越金ノ利息ハ別紙契約書ニ定メラル、割合ヲ以テ日々ノ残高ニ對シ一ヶ月毎ニ之ヲ積算シ翌月五日限り貴行

へ支拂可申候事

第五條 第四條及第九條ノ元利金拂込方相滞リ候節ハ豫テ當社ヨ



リ貴行へ差入置候擔保品ヲ貴行御隨意ノ時期方法及價格ヲ以テ御處分ノ上元利金及諸入費ニ宛テ御決算被成下度然ル上尚ホ不足相立候節ハ當社ニ於テ直ニ辨濟可致候事

第六條 原因ノ何タルヲ問ハス擔保品減少又ハ滅失若シクハ價格ノ低落其他損害ノ夕メ貴行ニ於テ擔保不足ト御認メ相成候節ハ御通知ノ日ヨリ三日以内ニ代リ擔保若クハ増擔保ヲ差入候力又ハ借越金ヲ返濟可致候萬一右履行相怠リ候節ハ第五條ノ趣旨ニ基キ貴行ニ於テ適宜御處分相成候共聊カ異議申聞敷候事

第七條 小切手ニ相用ヒ候當社並ニ代理人ノ筆蹟及印鑑ハ豫メ貴行へ差出置可申ニ付右ニ照シテ御支拂被下度候就テハ萬一使用人又ハ其ノ他ノ者ニ於テ小切手ノ偽造、変造、竊取若クハ擬筆、盜印致シ候者有之是レニ對シ貴行ニ於テ御支拂相成候モ異議申立テサルハ勿論總テ當社其ノ責ニ任シ聊カ貴行へ御迷惑御損耗相懸ケ申聞敷候事

第八條 擔保品ノ出入ニ就テハ貴行御指定ニ從ヒ取扱可申候事

第九條 此ノ約定ハ昭和五年六月參拾日限リトシ其ノ期限迄ニハ元利金辨濟可致候萬一期限内ト雖モ貴行ノ御都合ニ依リ何時此ノ約定御取消相成候共異議無之ハ勿論御請求次第元利金直ニ辨濟可致候事

第十條 本約定書ノ擔保品ハ別約當座借越金ノ外當社カ現在又ハ將來貴行ニ對シ負擔スル他ノ債務ノ擔保ニ御充當相成リ異議無之候コト

右別約當座借越勘定約定書一札仍而如件

昭和四年拾壹月拾八日

横濱市北仲通五丁目

帝國蚕絲株式會社

取締役社長

今井五介

横濱正金銀行

御中





貼印參  
用紙錢  
額 39

當座勘定借越約定書

貴行ノ當座勘定規定ヲ承認ノ上左ノ通り當座勘定借越ノ契約  
致候也

一 借越極度ヲ金七百七拾萬五千四百圓迄ト可致候事

二 借越金ノ利子ハ日々ノ最高殘高ニ對シ其時々ニ貴行ニ於テ  
定ムル割合ニ依リ日步勘定ヲ以テ三月、六月、九月及十二  
月ノ四度ニ支拂可申事

三 貴行ノ都合ニ依リ何時ニテモ借越極度ヲ減額シ借越ヲ中止  
シ又ハ本契約ヲ解除セラルルモ異存ナキ事

但本契約ノ解除ハ將來ニ向ツテノミ其効力ヲ生スヘキ事

四 貴行ニ於テ前項ノ規定ニ依リ借越ヲ中止シ又ハ本契約ヲ解  
除セラレタルトキハ元利金即時ニ返還可致事

五 第三項ノ規定ニ依リ借越極度ヲ減額セラレタル場合ニ於テ



其減額セラレタル借越極度ヲ超過スル借越金アルトキハ即時ニ之ヲ返済可致事  
六 爾後借越極度ヲ變更スル事アルモ特約ナキ限り本契約ヲ適用可致事

昭和七年二月二十四日

住所

帝國蠶絲株式會社

本人

專務取締役 加賀山辰四郎

住所

代理 木村贊夫

連帶保證人

印

橫濱正金銀行

御中

弊社儀絲價安定ノ爲生絲共同保管ノ實施ニ就而ハ曩ニ共同保管生絲壹千斤ニ付金壹萬貳千五百圓也ノ割合ヲ以テ貸出ニ付内金壹萬八百圓也ハ貴行ヨリ生絲擔保ニヨル借入金ヲ充當シ殘餘金壹千七百圓也ハ貴行ニ對スル弊社ノ定期預金債權金壹百貳拾五萬圓及ヒ弊社ニ於テ借入レタル社團法人帝國蠶絲組合ノ貴行ニ對スル定期預金債權金壹百九拾九萬九千八百四拾七圓九錢ヲ擔保トスル借入金ヲ以テ充當ノ事ニ念書差入置候處今般蠶絲業同業組合中央會生産調節理事會特別委員會決議要項ニ基キ五萬圓(從來ノ共同保管生絲ヲ含ム)ノ生絲共同保管ヲ實行致事ト相成候ニ就而ハ前記資金ノ外弊社ニ於テ社團法人帝國蠶絲組合ヨリ同組合定期預金ヲ順次借入レ之レヲ擔保トスル貴行ヨリノ借入金ヲ以テ充當可致生絲生産調節理事會特別委員會決議要項寫及弊社臨時株主總會寫相添へ此段爲念得貴意候

昭和五年二月二十六日



横濱正金銀行御中

帝國蠶絲株式會社  
社長 今井五介



昭和二年十一月十五日付ヲ以テ當座取引申込書ヲ差出シ貴行ト當座勘定取引相開キ候ニ付左ノ通約定致候

一 當座勘定引出小切手ニ相用ヒ候當社者署名鑑并ニ印鑑ハ貴行當座小切手用法ニ從ヒ豫メ差出置可申ニ付右ニ照ラシテ御支拂被下度然ル上ハ萬一使用人ハ勿論其他ノ者等ニ於テ偽筆盜印変造又ハ竊取致シ候事有之夫レニ對シ貴行ニ於テ御支拂ヒ相成候トモ總テ當社者ノ借勘定タルコトヲ承認シ貴行へ損失迷惑懸ケ申間敷候

一 當社者ノ都合ニ依リ當社者振出候約束手形又ハ引受致候爲替手形ニ貴行ヲ支拂場所若クハ支拂擔當者トシテ記載致シ候節ハ其都度御通知可致ハ勿論ニ候モ萬一右通知不致候トモ手形ノ期日ニ至リ貴行へ對シ支拂方ヲ請求致候者有之候節ハ前記署名鑑并ニ印鑑ニ照ラシ是亦當社者當座勘定ヨリ御支拂被下度候  
一 當社者振出候貴行宛小切手ハ振出日付ヨリ拾日間以上經過後提



示致候者有之候共當社者勘定ヨリ御支拂相成差支無之候  
右之通約定致候處相違無之候也

昭和二年十一月十五日

帝國蚕絲株式会社  
社長 今井 五介

横濱正金銀行

御中



弊社今般絲價安定の爲め生絲共同保管を實施し共同保管生絲壹千  
斤に付金壹萬貳千五百圓也の割合を以て貸出可致候但右の内金壹  
萬八百圓也は貴行より生絲擔保による借入金を充當し残餘金壹千  
七百圓也は弊社に於て借入れたる社團法人帝國蚕絲組合の貴行に  
對する定期預金債權金壹百九拾九萬九千八百四拾七圓拾九錢を擔  
保とする借入金を以て充當可致候  
右為念責意得候

昭和四年拾貳月六日

帝國蚕絲株式会社  
社長 今井 五介

横濱正金銀行

御中





證

文言

昭和四年 月 日付拙者社者ノ貴會社ニ對スル約定書ニヨル

生絲ヲ擔保トスル借入ハ自今生絲検査所ニ於テ石擔保生絲ヲ

検査シ格付決定次第昭和五年 月 日付拙者社者ノ貴會社ニ

對スル約定書ニヨル借入ニ變更スル事

右約定候也



約定書文言

(損失補償付強制保管)

今般(製糸家名 以下乙ト稱ス)ニ於テ帝國蠶絲株式會社(以下甲ト稱ス)ニ對シ生絲ノ共同保管ヲ申出テ且當該共同保管生絲ヲ擔保トシテ金員借用相願候ニ付甲乙間ニ左ノ通約定致候

第一條 乙ハ當該倉庫會社ノ營業規則ヲ承認シタル上共同保

管生絲ヲ帝國蠶絲倉庫株式會社又ハ同會社ノ指定シタル倉庫會社ニ寄託シ乙名義ノ倉荷證券ヲ得テ裏書ノ上之ヲ甲ニ差入レ質權ヲ設定スル事

第二條 共同保管生絲ハ昭和四年度產器械生絲ニシテ倉入目壹口千參拾斤以上輸出向最優等格以上ノモノタルヘク倉荷證券記載事項ノ如何ヲ問ハズ總テ乙ニ於テ其ノ提出セル申



吉書ノ数量銘柄品質ニ付良ノ責ニ任スル事

甲ハ生絲検査所ニ於テ共同保管生絲ノ検査格付ヲ受クルモ  
トス

甲ニ於テ共同保管生絲取換ノ必要アリト認メタルトキハ乙  
ハ何時ニテモ甲ノ取換ノ要求ニ應スル事

第三條 借入金ハ壹口ニ付金壹萬貳千五百圓トス但前條第二

項ノ格付ニヨリ甲ニ於テ相當ト認ムルトキハ當該共同保管  
生絲ニ對スル壹口ノ借入金額ヲ増額スルコトヲ得

乙ハ前項ノ借入金ヲ金額トスル振出地横濱市(神戸市)支  
押場所横濱正金銀行(横濱正金銀行神戸支店)支押期日一

覽押製絲家振出ノ約束手形ヲ甲ニ裏書讓渡スル事

第四條 乙カ甲ニ支押フヘキ借入金ノ利息割合ハ甲カ横濱正

金銀行ヨリ融通ヲ受クヘキ借入金ニ對スル割引歩合ニ依リ  
毎九十日前押トス

第五條 乙ハ甲ニ於テ甲ノ囑託シタル委員ヲ以テ組織スル特  
別委員會ニ諮リ決定シタル時期ニ非サレハ共同保管ノ解除

ヲ為スコトヲ得サル事

第六條 乙カ借入金ノ元金ノ支押ヲ遅滞シタルトキハ當該

擔保品タル共同保管生絲ヲ甲ニ於テ適宜處分ノ上諸費用ヲ  
差引キ貸付金ノ利息及元金ノ辨済ニ充當シ尚不足アルトキ

ハ乙ヨリ甲ニ辨済スルコト

第七條 擔保品タル共同保管生絲ノ全部又ハ一部ノ原因ノ如

何ヲ問ハス滅失又ハ毀損シ若クハ其他ノ事由ニ因リ甲ニ於  
テ擔保不足ト認メタルトキハ甲ノ請求次第乙ハ直ニ代リ擔

保又ハ増擔保ヲ差入ルルカ又ハ借入金ノ元金ニ相當スル現  
金ヲ差入ルル事

第八條 右擔保品ニ對スル保管料(保険料ヲ含ム)及ヒ其他  
ノ費用ハ總テ乙ノ負擔トス但第二條第二項ノ格付検査ノ為



×ニ要スル運搬費（取替ニ要スル運搬費ヲ除ク）及ヒ運送  
保険料ハ甲ノ負擔トス

第九條 乙ハ甲カ横濱正金銀行ヨリ貸付ヲ受ケタル債務ヲ擔  
保スル為メ右擔保品ヲ轉質シ又ハ質權ヲ讓渡スルコトヲ承  
諾シタル事

第十條 共同保管解除ノ場合ニ於テ横濱市場ノ最優等格成行  
値段カ千貳百五十圓ニ達セサルトキハ甲ハ乙ニ對シ解除シ  
タル當該共同保管生絲壹荷口ニ付壹千圓ヲ限度トシテ其ノ  
差額ヲ補償スル事

共同保管解除ノ場合ニ於テ横濱市場ノ最優等格成行値段カ  
千貳百五十圓ヨリ高價ナルトキハ乙ハ甲ニ對シ解除シタル  
當該共同保管生絲壹荷口ニ付其ノ差額ノ半額ヲ納付スル事  
第十一條 第五條ニヨリ共同保管期間カ六ヶ月ヲ超エタルト  
キハ甲ハ爾後乙ノ支辨フヘキ借入金ノ利息ヲ免除シ且爾後

ノ保管料ヲ負擔スルモノトス

右契約候也



誓約書文言

昭和四年十一月十八日開會ノ第十五回蠶絲業同業組合中央會  
總會並ニ昭和五年一月三十日開會ノ同會生絲生産調節理事會  
特別委員會決議ニ基キ共同保管セル生絲ニ付貴會社ノ爲ス一  
切ノ行爲ヲ承認シ其ノ結果ニ對シ何等異議申出間敷爲後日誓  
約書差入候也



擔保品差入證文言

右ハ<sup>社者</sup>當社カ貴會社ニ對シ昭和 年 月 日付約定書ニ基ク借  
入金ニ關スル一切ノ債務ノ履行ノ擔保トシテ貴會社ヘ差入レ  
算權設定致候ニ就テハ萬一債務者ニ於テ其ノ債務ヲ履行セサ  
ルトキハ何等ノ通知催告ヲ要セス且法律上ノ手續ニ依ラス前  
記ノ擔保品適宜御賣却ノ上其ノ代金ヲ以テ債務ノ辨済ニ御充  
當可被成下候又期限中擔保品ニ變災故障等相生シ候節ハ貴會  
社ヨリ御通知次第直ニ債務者ニ於テ代擔保品若クハ増擔保品  
差入可申カ又ハ不足分ニ對シ入金可致候尚貴會社カ右算權ヲ  
他ヘ讓渡シ又ハ轉算ト爲スコトヲ承諾致候ニ付右手續ヲ完全  
ナラシムルニ必要トセラルル書類ニハ御申越次第記名調印可  
仕候也